

## オフィス回帰でデスクトップPCに再注目 企業の生産性を高める用途別PCの選び方

リモートワークが広く浸透する一方で、チームビルディングや社内コミュニケーションの活性化といった観点から、オフィス勤務のメリットを再評価する企業が増えている。会社や自宅、サテライトオフィスなど場所を問わず働くハイブリッドワークが主流となった現在、携帯性に優れたモバイル PC がビジネス PC の中心を占めているが、最近のオフィス回帰の流れにより、ビジネス PC の需要にも新たな変化が見られる。

法人 PC ブランド「MousePro」を展開するマウスコンピューターによると、2024 年度第 3 四半期の同社の PC 出荷台数は、依然としてモバイル PC が大きな割合を占めているものの、デスクトップ PC の出荷台数も前年比 140%増と急成長しているという。「デスクトップ PC が再注目されている要因は複数ありますが、オフィス回帰のトレンドもその一つだと考えています」（マウスコンピューター）

経理や総務などのオフィスワークが中心の業務には、コストを抑えつつ快適に動作するデスクトップ PC が適している。機密性の高いデータをオフィス内に限定して扱うことで、セキュリティを強化できる点もメリットだ。デザインワークを担当する部署も、モバイル PC よりも独立した GPU を搭載するデスクトップ PC の方が高いパフォーマンスを発揮する。

重要なのは、業務内容に応じた PC 環境の整備だ。本稿ではマウスコンピューター製デスクトップ PC のおすすめモデルを職種別に紹介する。

### 税込み10万円以下

#### バックオフィス業務に適したスモールPC

総務や人事、経理などのバックオフィス業務を担う部署におすすめしたいのが横幅約 28 ミリの小型 PC 「MousePro CR-I1U01」だ。スタンド装着（縦置き）時の本体サイズ



10 万円を切るオフィス向け小型デスクトップ PC 「MousePro CR-I1U01」

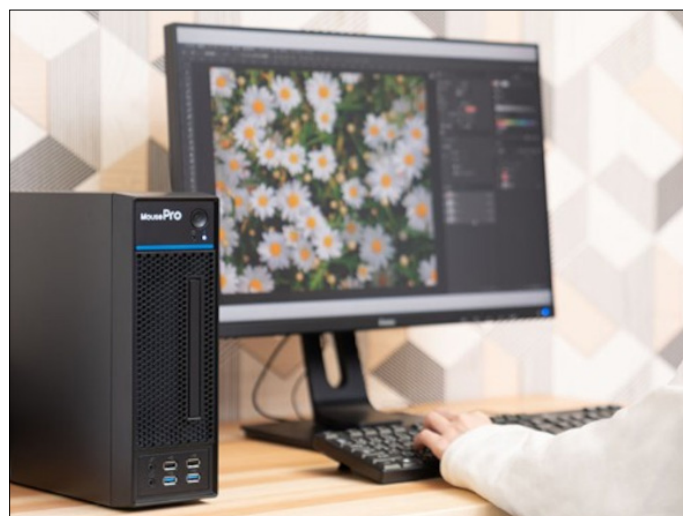
は約 73（幅）×219（高さ）×153（奥行き）ミリとコンパクトな設計で、VESA 規格対応マウントを付属しておりディスプレイの背面に設置できる<sup>(※)</sup>。外部映像出力として、USB 3.1 Type-C、USB Type-C、HDMI、アナログ RGB を備え、最大 4 画面出力に対応。USB Type-C（DisplayPort Alt Mode 対応）のデジタイゼーション接続ならケーブル 1 本でマルチディスプレイを利用できる（画面拡張は最大 2 画面、画面複製は最大 4 画面）。これらの特徴によってデスクスペースを広くすっきりと保ったまま生産性の高い作業環境を構築可能だ。

基本スペックは、インテル® Celeron® プロセッサー 4205U、8GB メモリ、インテル® UHD グラフィックス 610（CPU 内蔵）、500GB SSD（NVMe）という構成。事務作業をこなすのに十分な性能だ。ネットワーク機能は、ギガビット LAN ポートを背面に搭載、Wi-Fi 6E 対応無線 LAN + Bluetooth 5.0 を内蔵する。

(※) マウスコンピューターの iiyama ディスプレイの一部では対応したブラケットが必要です



付属の VESA マウントでディスプレイの背面に装着可能。一体型 PC のようにデスクスペースを広く活用できる



スリム型のビジネス向けワークステーション「MousePro LP-I5N10」。幅約 99 ミリのケースにプロ向けグラフィックスカードを搭載する

コンパクトかつ本体重量が約 668 グラムとモバイル PC よりも軽量なため、通勤時に持ち運ぶのも苦にならない。自宅とオフィスの両方に外付けディスプレイがあれば、普段は在宅ワークで月に何日かは出社する、といった働き方にもマッチする。

#### 6 万 280 円の低価格モデルや

#### インテル® Core® i5 プロセッサー搭載モデルも

MousePro CR シリーズの製品ラインアップには、基本スペックを落として価格を抑えた「MousePro CR-I1U01（インテル® Celeron® プロセッサー 4205U モデル）」（6 万 280 円）や、第 13 世代のインテル® Core™ i5-1335U プロセッサー（10 コア／最大 4.6GHz）を採用した高性能モデル「MousePro CR-I5U01」（15 万 3780 円）などが用意されており、それぞれ処理性能や最大画面表示数に違いがある。シンプルな入力作業が中心であれば低価格モデルを、マルチディスプレイで作業をしつつ、バックグラウンド処理も頻繁に行う必要があるなら高性能モデルも検討したい。

### クリエイティブワークの作業効率を アップするビジネス向けワークステーション

社内のクリエイティブワークを担当する部署は、企業ブランディングやマーケティング活動を支えるさまざまな制作業務を行っている。自社製品のパンフレットやパッケージのデザ

イン、企業サイトの UI / UX などその対象は幅広い。昨今は SNS や動画プラットフォームでのプロモーションを目的として、動画コンテンツ制作を内製化する企業も増えている。

動画編集や 3D モデリングなどを快適にこなすには、専用の GPU を搭載したデスクトップ PC が不可欠だ。MousePro のデスクトップ PC には、スリム型の「MousePro LP」シリーズと、ミニタワー型の「MousePro BP」シリーズがあり、前者は幅約 99 ミリのスリムケースを採用しながら、ロープロファイル仕様のプロ向けグラフィックスカードを搭載することで省スペース性と高い性能を兼ね備えている。ここではエントリー向け GPU の RTX A400 を採用する「MousePro LP-I5N04」と、ミドルレンジの RTX A1000 を採用する「MousePro LP-I5N10」を紹介する。

両製品ともに CPU は第 14 世代のインテル® Core™ i5 プロセッサー 14400F（最大 4.7GHz / 10 コア）で、16GB メモリと 500GB SSD（NVMe）を搭載する。MousePro LP-I5N04 が 19 万 80 円、MousePro LP-I5N10 が 24 万 8380 円となっており、5 万円弱の価格差はほぼ搭載 GPU の違いによる。

RTX A400 は 768 基の CUDA コアと 6 基の RT コア、24 基の Tensor コアを搭載、一方の RTX A1000 は 2304 基の CUDA コアと 18 基の RT コア、72 基の Tensor コアを搭載する。2D デザインや軽めの CAD 作業なら前者、3D モデリングや CG 制作、動画編集なども行うのなら後者が適している。いずれのモデルも本体背面に Mini DisplayPort を 4 基備え、4 画面出力が可能だ。

約 100（幅）×290（高さ）×328（奥行き）ミリのスリムな本体に、ハイブリッド・アーキテクチャを採用する強力な CPU と高性能なグラフィックスカードを内蔵しながら、徹底した排熱検証によって安定稼働を目指す姿勢は、国内製造による信頼性に強みを持つマウスコンピューターならではの。保証期間が標準で 3 年間（無償センドバック）、最大で 5 年に延長できる点も心強い。

### 機械学習や Omniverse におすすめのモデルも

MousePro LP シリーズには、Ada 世代の GPU を搭載したモデルも用意されている。NVIDIA RTX™ 4000 SFF Ada 世代搭載モデル「MousePro LP-I7N40」は、価格が 52 万 7780 円と高価だが、RTX A シリーズ（Ampere 世代）の GPU に比べて AI 処理性能やリアルタイムレイトレーシング性能が強化されており、科学計算や機械学習、仮想空間上でのシミュレーションといった業務に適している。また、グラフィックスメモリが 20GB（GDDR6）と多く、Stable Diffusion などの画像生成 AI をローカルで処理する際も高速化が期待できる。



Ada 世代の GPU を搭載。画像生成 AI の活用にも向いている

## 営業スタッフの生産性をアップする オフィス用ディスプレイ

Web 会議の浸透によって顧客とのミーティングをオンラインで済ませることも増えているが、重要な商談や突発的なインシデント対応などは現地に足を運ぶ方がよい。営業職に



14 型ビジネスモバイル PC 「MousePro G4-I5U01BK-B」

としてはどこでも仕事ができる機動力の高いモバイル PC が適している。とはいえ、出社する機会があるのなら、オフィスならではの作業効率の高い環境で仕事をしたいと考えるのは当然だろう。

コロナ禍以降、社内にフリーアドレス席を用意する企業は多い。そこで各席に画面の広い外付けディスプレイを設置するのはどうだろうか。オフィスではマルチディスプレイで情報収集やプレゼン資料の作り込みを行い、外出先ではメールのチェックや資料を修正して商談に備える、といった働き方ができると効率はさらに上がるはずだ。

マウスコンピューターが販売する iiyama ブランド製ディスプレイ「ProLite XUB2797QSN-B1」のように、HDMI や



27 型ディスプレイ「ProLite XUB2797QSN-B1」

DisplayPortに加えてUSB Type-Cを搭載（DisplayPort Alt ModeとUSB Power Deliveryに対応）するモデルなら、映像出力とモバイルPCの電源供給（バッテリー充電、最大65W）をType-Cケーブル1本で同時にできる。ACアダプターを持ち運ぶ必要がなく、帰社してディスプレイにさすとケーブルをつなぎすぐに作業に取り掛かれるので便利だ。

オフィス回帰の流れにより、業務内容に適したPC環境の整備がますます重要になっている。用途に応じたデスクトップPCや外付けディスプレイを適切に選択することで、生産性は大幅に上がるはずだ。今回紹介した各モデルの詳細はマウスコンピューターの公式サイトでチェックしてほしい。

#### ●お問い合わせ

##### 株式会社マウスコンピューター

TEL（法人）：03-6636-4323（平日：9～12時／13時～18時、土日祝：9～20時）

TEL（個人）：03-6636-4321（9時～20時）

メールアドレス：[houjin@mouse-jp.co.jp](mailto:houjin@mouse-jp.co.jp)

お問い合わせフォーム：<https://www.mouse-jp.co.jp/store/business/contact.aspx>

※この冊子は、ITmedia ビジネスオンライン（<https://www.itmedia.co.jp/business/>）に2025年4月に掲載されたコンテンツを再構成したものです。  
<https://www.itmedia.co.jp/business/articles/2504/21/news004.html>

copyright© ITmedia, Inc. All Rights Reserved.